

## 資料1 泡瀬干潟・海草藻場、サンゴ群集モニタリング調査結果 (2004-2011)

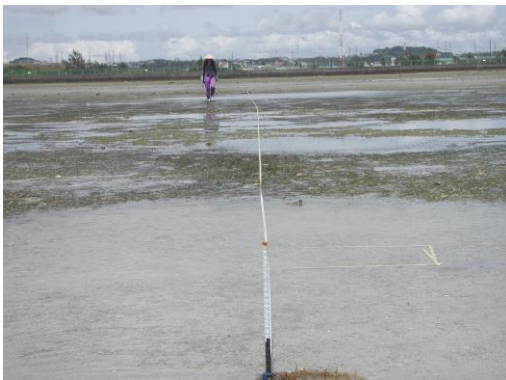
### ■ モニタリング地点



### ■ 海草藻場の消失

1. 干潟域（第Ⅱ区域）の小型海草群落（コアマモ・マツバウミジグサ）が激減（LS）
  - ・浅場の豊かな海草藻場（マツバウミジグサ・コアモ群落）に 70m のモニタリング調査ラインを設置し、2004 年から毎年調査を実施

2004 年



2011 年





2004-2011 年のマツバウミジグサ・コアマモ群落の変化 (LS)

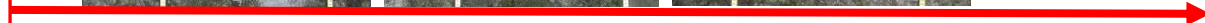
2004 年 9 月



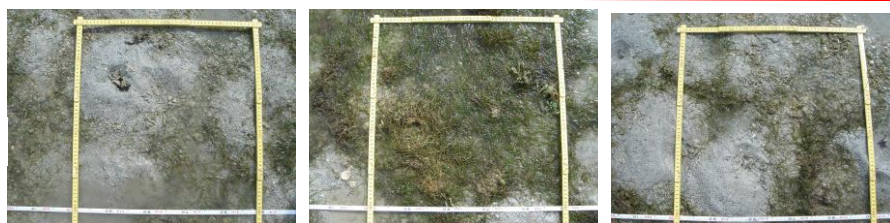
2005 年 9 月



埋立工事  
スタート



2006 年 10 月



2007 年 9 月



2008 年 8 月



2009 年 8 月

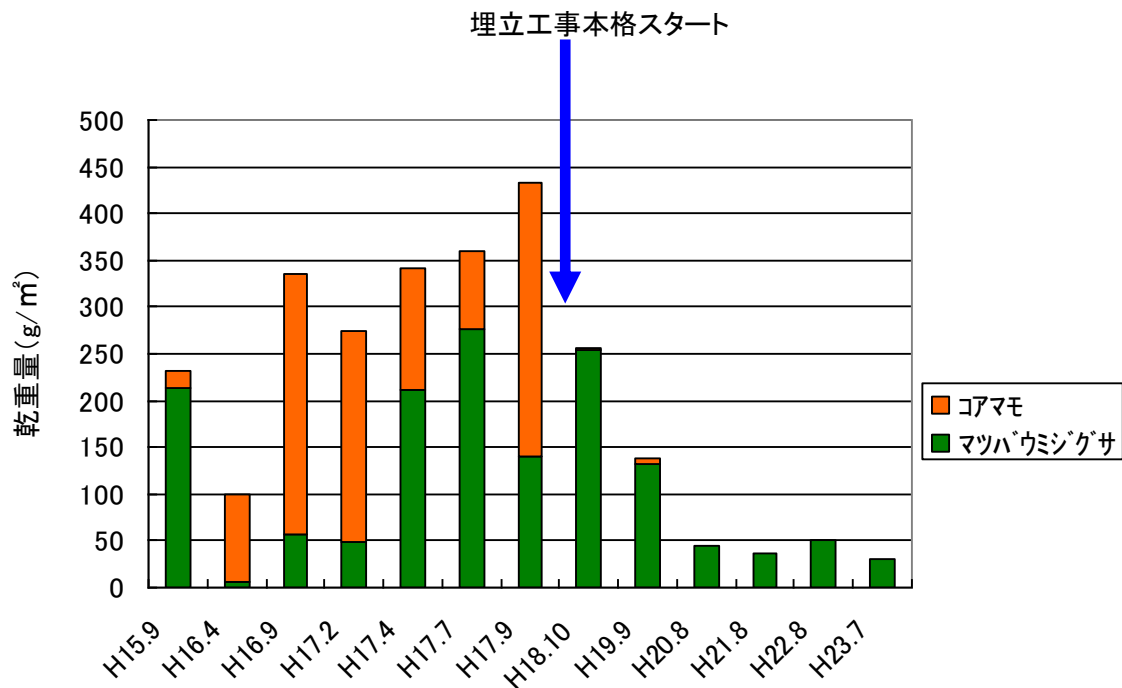


2010 年 8 月



2011 年 7 月





マツバウミジグサ・コアマモ群落(LS)のバイオマスの変化

\*海草の生育量は激減し、調査地ではコアマモが全く見られなくなった

## 2. 潮間帯（陸から500m付近）のマツバウミジグサ・リュウキュウスガモ・ウミジグサ群落が消滅（L1）

- ・埋立て計画地より陸側の浅場の豊かな海草藻場に600mのモニタリング調査ラインを設置し、2004年から毎年調査を実施



2006年1月から仮設栈橋周辺の浚渫など本格的な埋立工事がスタート



2007 年



海草群落が激減

2008 年



海草群落がほぼ消滅

2009 年



海草群落の回復は見られない

2010 年

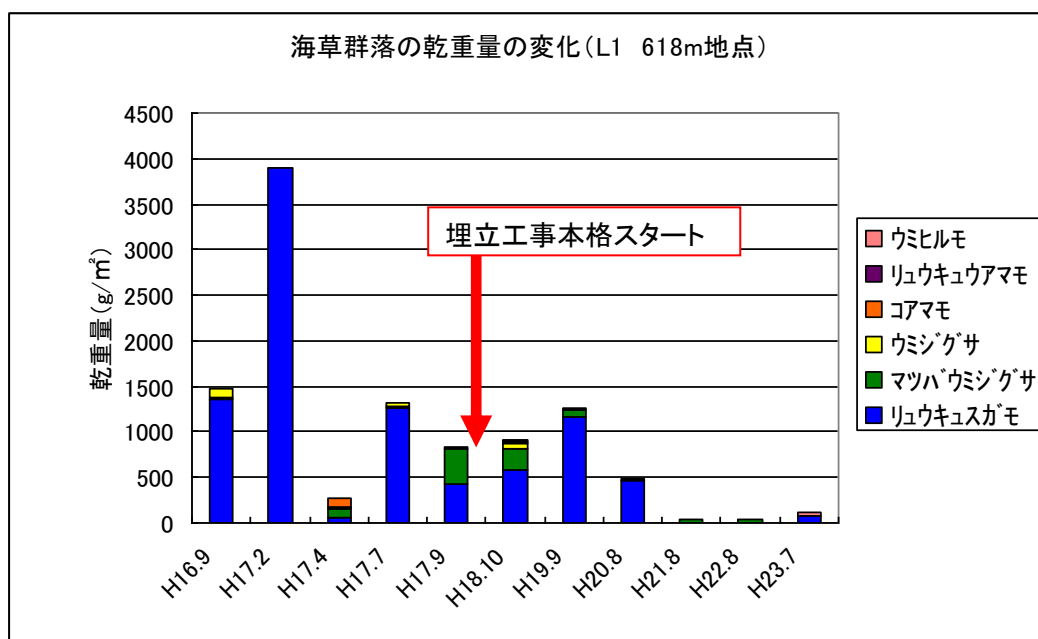
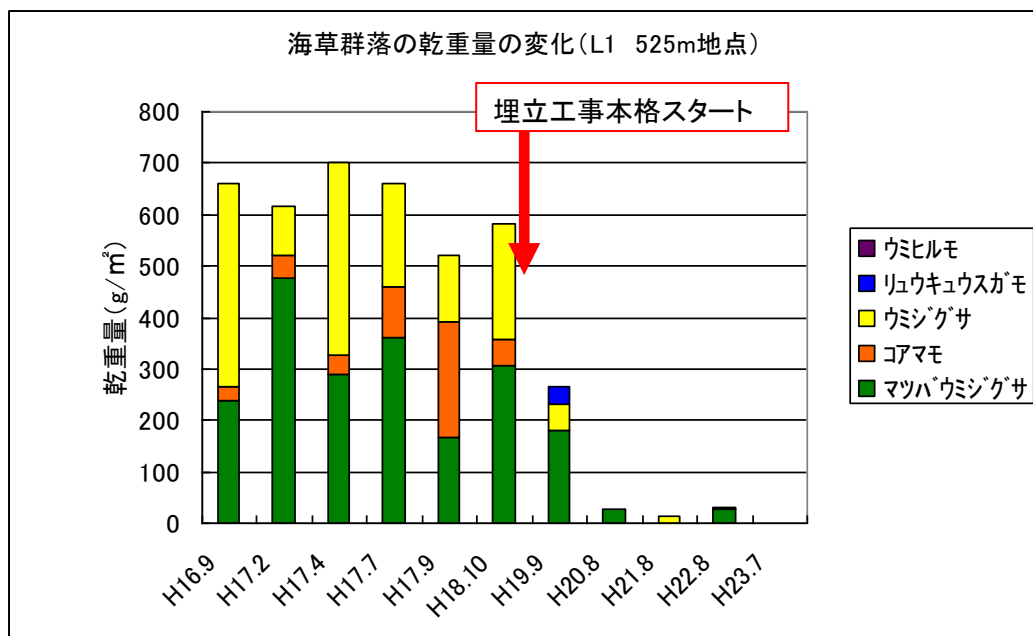
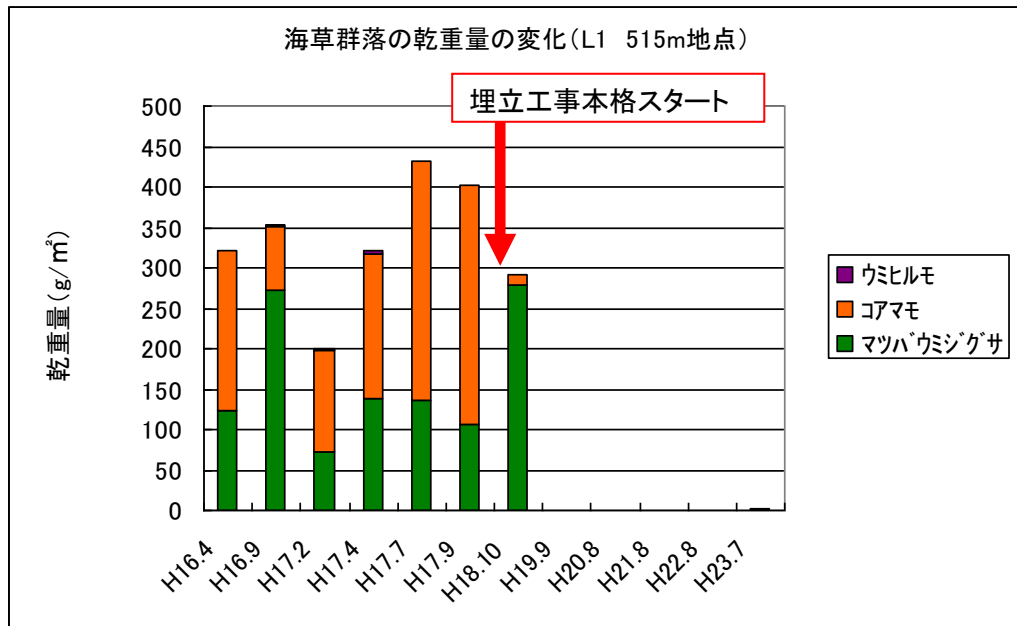


リュウキュウスガモ・ウミジグサが周辺にもほとんど見られなくなった

2011 年



多様性は無くなり、マツバウミジグサがわずかに見られるだけとなった



## ■サンゴ群集が劣化

### 1. 第 I 区域内に生息していたサンゴ群集は生き埋めに (サンゴ 1)

2005 年



スギノキミドリイシ



リュウキュウキッカサンゴ (小橋川共男撮影)

第 I 区域内には、スギノキミドリイシ、リュウキュウキッカサンゴなどが約 976 m<sup>2</sup>生息していた。しかし、事業者は何の保全措置も取らず、2009 年 1 月に埋立護岸内に浚渫土砂の投入を始めた。

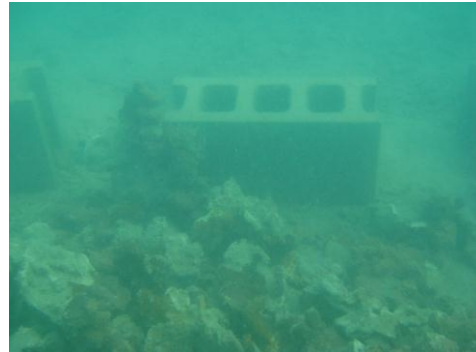
区域内のサンゴの一部については、2008-2009 年に沖縄市と NPO コーラル沖縄などにより約 276 m<sup>2</sup>が移植されたが、いまだ 700 m<sup>2</sup>は残っている。

しかし、サンゴ礁生態系というのはサンゴのみで構成されている訳ではないので、サンゴのみを移植してもそれを環境保全措置とは言えない。

移植されたサンゴについても移植先の選定や移植方法などに大きな問題がある。



西防波堤の沖側に移植されたスギノキミドリイシ  
劣化した群体が目立つ (2011 年)



移植されたリュウキュウキッカサンゴ  
移植直後に泥をかぶって死んでいた(2009 年)

## 2. 埋立地周辺に広がるヒメマツイドリイシ群集が劣化（サンゴ2）

2005 年



西防波堤に広がるヒメマツミドリイシ群集  
(小橋川共男撮影)

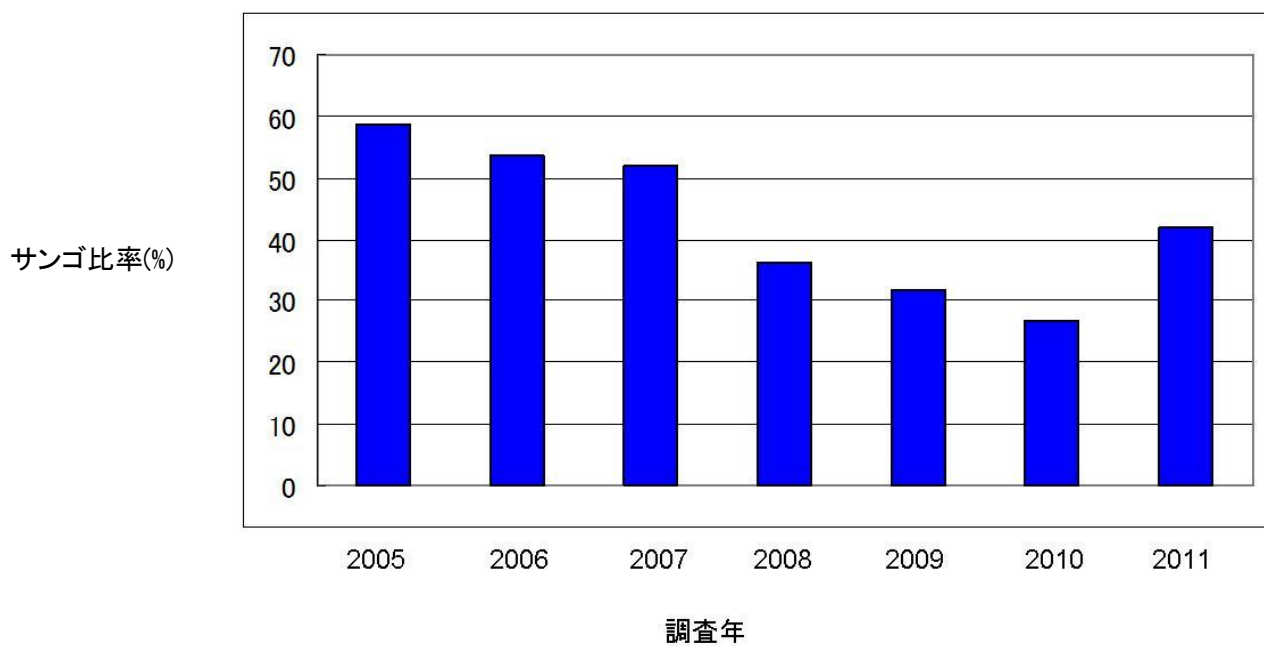
ほぼ毎年産卵が確認されていた

2009 年



死滅が進むヒメマツミドリイシ

### ヒメマツミドリイシ群集（西防波堤）の生息状況の変遷





■砂洲が大きく変形し、とうとう水没した（L2）

- ・泡瀬通信基地の先端と西防波堤を結ぶ約 1600m のモニタリング調査ラインで、砂洲東側に広がる海草藻場に設置し、2004 年から毎年調査を実施

2004 年



砂洲は海草藻場のずっと西側（写真右手：矢印）にあった

（Google）

2006 年



陸から 510m 地点

（泡瀬干潟を守る連絡会撮影）

2007 年



554m 地点。砂洲は 554～690m に位置する。

（泡瀬干潟を守る連絡会撮影）

急に盛り上がる高さがある砂洲に変貌

2008 年



砂洲は、566m～690m



2009 年



砂洲は、566m～700m

(Google)

2010年

砂洲は、537m～695m

2011 年



砂洲は、467m～700m。平らに広がった

(泡瀬干潟を守る連絡会提供)

問合先

公益財団法人日本自然保護協会

〒104-0033 東京都中央区新川 1-16-10 ミトビル 2F

Tel.03-3553-4101 <http://www.nacsi.or.jp>

担当：開発法子（事務局長） 安部真理子（保護プロジェクト部）

[kai@nacsi.or.jp](mailto:kai@nacsi.or.jp)

[abe@nacsi.or.jp](mailto:abe@nacsi.or.jp)